

2023 年度「名工大英語鍛錬道場」活動報告

吉川りさ・横越梓・石川有香

1. はじめに

2021 年度より名古屋工業大学の英語科目集団が活動する「名工大英語鍛錬道場」（以下、「鍛錬道場」）では、院生と学部生を対象に定期的な TOEIC IP テスト受験機会の提供と、希望者に対して e ラーニング教材「ぎゅっと e」のアカウント付与・運営管理を行っている。本稿は、3 年目となる 2023 年度の活動報告を行い、今後の活動に対する改善点や現状の問題点を明確にし、それに対する改善策を探ることとする。

2. TOEIC IP 実施

今年度の TOEIC IP 実施における狙いと、計画から実施までの流れは、2022 年度と同様であるため、詳細については吉川・横越・石川（印刷中）を参照されたい。IP 実施時期においても、初年度から変わりなく、鍛錬道場実施時期と連動させることを念頭に置き、今年度は二回実施した。一回目は、2023 年 8 月 3 日（木）～8 月 23 日（水）を申込期間、8 月 25 日（金）にオンライン形式の IP テストを対面式で実施した。ここで得られたスコア（表 1 の「第 2 回実施分」に該当）は、2023 年度後期鍛錬活動における学習コース振り分け時の資料として、また、2023 年度前期分の鍛錬道場の学習効果の測定におけるデータとした。二回目は、2024 年 1 月 22 日（月）～2 月 14 日（水）を申込期間とし、2 月 16 日（金）と 2 月 20 日（火）にオンライン形式の IP テストを対面式で実施した。ここで得られたスコア（表 1 の「第 3 回実施分」に該当）は 2024 年度前期の鍛錬活動における学習コース振り分け時の資料として、また、2023 年度後期分の鍛錬道場の学習効果の測定におけるデータとした。なお、2023 年度前期鍛錬活動の際の学習コース振り分け用の TOEIC IP スコアは、吉川他（印刷中）で報告した「第 3 回実施分」の結果を利用した。各回の

受験者内訳と記述統計は表1に示す通りである。

まず、第2回実施分の参加者が少なかったことがわかる。これについては実施時期が夏季休業期間であったことから学生が帰省していたことに起因すると考えている。というのも「実家に帰省するため受験ができない」という学生の声も少なくなかったためである。その他の回においては、昨年度と同じ40名弱の学生が受験していた。全回において受験者がいたことから、定期的な受験機会を設けたことには今年度においても意義があったと考えられる。

表1. TOEIC IPテスト受験者内訳と記述統計

学年・所属	第1回実施分			第2回実施分			第3回実施分		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
学部1年	0	-	-	3	605.00	32.79	1	630.00	-
学部2年	4	516.25	173.46	4	655.00	224.83	3	525.99	44.44
学部3年	9	516.11	112.55	5	704.00	156.90	6	565.00	169.65
学部4年	22	606.14	93.95	6	594.17	131.92	16	566.25	109.52
博士前期課程	2	590.00	7.07	0	-	-	3	506.67	43.11
博士後期課程	0	-	-	0	-	-	2	672.50	53.03
総受験者数	37	557.13	96.76	18	639.54	50.48	37	557.13	96.76

注)「第1回実施分」は、吉川他(2023)の表1の「第3回実施分」と同内容である。

3. 鍛錬道場の実施手順

鍛錬道場の実施までの手順のうち、使用教材と参加登録・使用コース振り分け手順は、昨年度と大きな変化はないため、詳細については吉川他（印刷中）を参照されたい。今年度も年度を通して、鍛錬道場を二度開催した。具体的な実施時期は、一回目は2023年5月～9月の期間、二回目は、2023年10月～2024年3月の期間であり、それぞれ「2023前期 名工大英語鍛錬道場」（以下、「前期道場」）、「2023後期 名工大英語鍛錬道場」（以下、「後期道場」）の名称の下で実施した。

3.1 2023年度鍛錬道場参加者の特徴と学習コース振り分け結果

本節ではまず、今年度の鍛錬道場に参加した学生の特徴を参加申し込み時に尋ねたアンケート結果を基にまとめていく。次に、三つの学習コースへの振り分け結果を道場毎に示していく。

まず、各道場への参加者の特徴として道場参加理由（複数選択式アンケートを使用）を尋ねたアンケート結果を報告する（前期道場に関する結果は図1、

後期道場に関する結果は図 2 にそれぞれ示す)。なお、道場参加過程で蓄積されるデータは匿名管理の上、英語教育の改善に活用される旨を告知し、全員から同意回答を得た。

両図から読み取れるのはまず、道場への参加目的は前後期ともに大きな相違が見られず、就職活動時や進学時といった将来を見据えた学生や、英語外部試験対策として学習を望む学生が多くいることである。一方で、「視野を広めたい」、「英語が好き」という気持ちが参加のきっかけになった学生や、友人の紹介を通じての参加者は相対的に低いこともわかる。これらの点に関しては、前年度と同じ傾向であり、両道場の参加者の参加動機は、内発的より外発的であると考えられる。

次に、学習コースの振り分け結果を示す(表 2 は前期道場、表 3 は後期道場に関する結果である)。前後期ともに、中級に属する学生がほとんどの学年において最も多く、例年通りの結果であった。

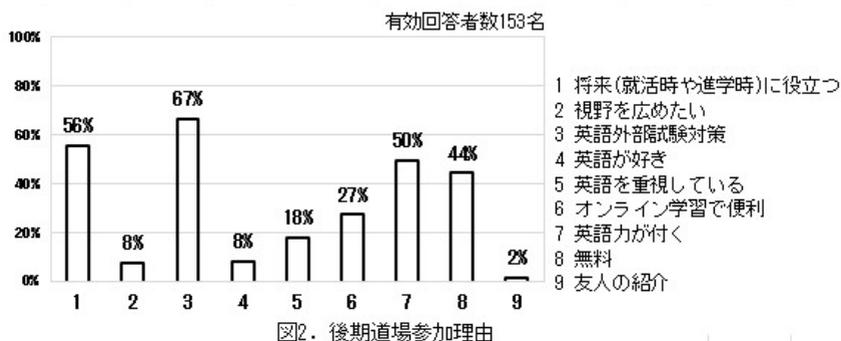
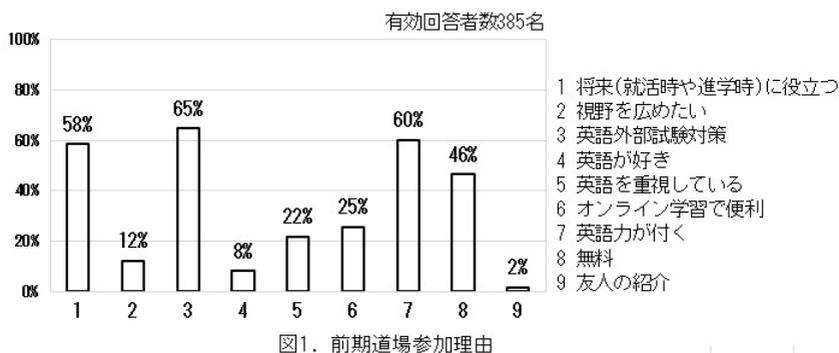


表2. 学年別使用教材コース振り分け結果（前期道場）

教材レベル	学年					
	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	博士前期課程	博士後
初級	37	1	5	3	5	
中級	114	20	22	25	16	
上級	22	23	21	27	39	

表3. 学年別使用教材コース振り分け結果（後期道場）

教材レベル	学年					
	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	博士前期課程	博士後
初級	1	3	1	1	0	
中級	20	12	23	6	12	
上級	10	13	19	13	18	

3.2 Moodle の設定手順と学習支援

Moodle 設定に関しても例年通り、三つのレベルコースごとにトピックを作成し、その中に「ぎゅっと e」の取り組みに必要な資料を事前アップデートした。詳細については吉川他（印刷中）を参照されたい。

週単位の取り組み速度目安については、学習開始前の事前アップロードファイルの一つとして、前期・後期道場ともにクラスごとに Moodle 上で提示した（前期道場分は図 3～図 5 に、後期道場分は図 6～図 8 にそれぞれ示す）。ただし学生には、例年通り、必ずこの目安で進まないといけないうものではなく、各週の課題量が少ないと感じた場合は自分のペースで先に進めること、そして継続した英語学習が続けられるよう計画的な学習計画を立てることを勧めた。

鍛錬道場学習が開始されてからの支援においては、学習目安の提示と定期的なメッセージ配信が学生にとって有益であると感じられ得るコメントが 2022 年度実施のアンケート調査から得られたことから、今年度は、2022 年度に取りやめたメッセージ配信を再び行うこととした。配信を行っていた初年度の 2021 年度では、「ぎゅっと e」の学習ページのホーム画面に毎月曜日に筆頭著者がアクセスし、応援メッセージを更新すると同時に、Moodle のアナウンスメント機能を用いて、同様のメッセージをメールで配信していた（参照：吉川他，2022）。しかし今年度は、北辰映電株式会社が提供する自動メール配信システムを利用し、週単位の取り組み速度で示した学習期間の週初めの毎月曜日

	期間	Listening	Grammar
1	5/1~5/7	001-062	001-057
2	5/8~5/14	063-124	058-114
3	5/15~5/21	125-186	115-171
4	5/22~5/28	187-248	172-228
5	5/29~6/4	249-310	229-285
6	6/5~6/11	遅れ解消期間	
7	6/12~6/18	311-372	286-342
8	6/19~6/25	373-434	343-399
9	6/26~7/2	435-496	400-456
10	7/3~7/9	497-557	457-513
11	7/10~7/16	558-620	514-570
12	7/17~7/23	遅れ解消期間	
13	7/24~7/30	621-680	571-627
14	7/31~8/6	681-740	628-684
15	8/7~8/13	741-800	685-740
16	8/14~9/30	遅れ解消期間	

図3. 初級コースの取り組み速度目安 (前期)

	期間	Listening	Grammar
1	5/1~5/7	001-062	001-057
2	5/8~5/14	063-124	058-114
3	5/15~5/21	125-186	115-171
4	5/22~5/28	187-248	172-228
5	5/29~6/4	249-310	229-285
6	6/5~6/11	遅れ解消期間	
7	6/12~6/18	311-372	286-342
8	6/19~6/25	373-434	343-399
9	6/26~7/2	435-496	400-456
10	7/3~7/9	497-557	457-513
11	7/10~7/16	558-620	514-570
12	7/17~7/23	遅れ解消期間	
13	7/24~7/30	621-680	571-627
14	7/31~8/6	681-740	628-684
15	8/7~8/13	741-800	685-740
16	8/14~9/30	遅れ解消期間	

図4. 中級コースの取り組み速度目安 (前期)

	期間	Listening	Grammar
1	5/1~5/7	001-054	001-057
2	5/8~5/14	055-108	058-114
3	5/15~5/21	109-162	115-171
4	5/22~5/28	163-220	172-228
5	5/29~6/4	221-275	229-285
6	6/5~6/11	遅れ解消期間	
7	6/12~6/18	276-328	286-342
8	6/19~6/25	329-382	343-399
9	6/26~7/2	383-436	400-456
10	7/3~7/9	437-496	457-513
11	7/10~7/16	497-550	514-570
12	7/17~7/23	遅れ解消期間	
13	7/24~7/30	551-604	571-627
14	7/31~8/6	605-658	628-684
15	8/7~8/13	659-720	685-740
16	8/14~9/30	遅れ解消期間	

図5. 上級コースの取り組み速度目安 (前期)

		Listening	Grammar
1	10/16~10/22	001-060	001-060
2	10/23~10/29	061-120	061-121
3	10/30~11/5	121-180	122-182
4	11/6~11/12	181-240	183-243
5	11/13~11/19	241-300	244-304
6	11/20~11/26	301-360	305-365
7	11/27~12/3	361-420	366-426
8	12/4~12/10	遅れ解消期間	
9	12/11~12/17	421-480	427-487
10	12/18~12/24	481-540	488-548
11	12/25~1/7	遅れ解消期間	
12	1/8~1/14	541-600	549-609
13	1/15~1/21	601-660	610-670
14	1/22~1/28	661-726	671-731
15	1/29~2/4	727-800	732-740
16	2/5~3/31	総復習	

図6. 初級コースの取り組み速度目安 (後期)

	期間	Listening	Grammar
1	10/16~10/22	001-060	001-060
2	10/23~10/29	061-120	061-121
3	10/30~11/5	121-180	122-182
4	11/6~11/12	181-240	183-243
5	11/13~11/19	241-300	244-304
6	11/20~11/26	301-360	305-365
7	11/27~12/3	361-420	366-426
8	12/4~12/10	遅れ解消期間	
9	12/11~12/17	421-480	427-487
10	12/18~12/24	481-540	488-548
11	12/25~1/7	遅れ解消期間	
12	1/8~1/14	541-600	549-609
13	1/15~1/21	601-660	610-670
14	1/22~1/28	661-726	671-731
15	1/29~2/4	727-800	732-740
16	2/5~3/31	総復習	

図7. 中級コースの取り組み速度目安 (後期)

	期間	Listening	Grammar
1	10/16~10/22	001-054	001-060
2	10/23~10/29	055-108	061-121
3	10/30~11/5	109-162	122-182
4	11/6~11/12	163-220	183-243
5	11/13~11/19	221-274	244-304
6	11/20~11/26	275-328	305-365
7	11/27~12/3	329-388	366-426
8	12/4~12/10	遅れ解消期間	
9	12/11~12/17	389-442	427-487
10	12/18~12/24	443-496	488-548
11	12/25~1/7	遅れ解消期間	
12	1/8~1/14	497-550	549-609
13	1/15~1/21	551-604	610-670
14	1/22~1/28	605-658	671-731
15	1/29~2/4	659-720	732-740
16	2/5~3/31	総復習	

図8. 上級コースの取り組み速度目安 (後期)

の午前 8 時に、あらかじめ作成したメッセージをメールで配信するよう設定した。つまり、前・後期それぞれで計 16 回メッセージを毎月曜日に配信し、学習への取り組み意欲の向上を図った。

4. 2023 年度実施分の鍛錬道場の取り組み状況

本章では例年通り、各道場での参加者の取り組み状況をまとめていく。まず、各道場での取り組み状況に関するデータをまとめ、次に、TOEIC (IP) との関連を探っていくこととする。

4.1 「ぎゅっと e」取り組み状況

本節ではまず、週ごとのログイン回数の結果を図示する（図 9 は前期道場、図 10 は後期道場の結果を示す）。図の作成にあたっては、2022 年度と同様に、学習目安期間中に参加者がログインした回数を六つのパターン（1～2 回・3～4 回・5～9 回・10～24 回以上・25 回以上）に分類した。なお、該当週にログインを一度もしていない参加者の全体平均は、前期と後期でそれぞれ 302.88 名 ($SD=45.46$) と 113.88 名 ($SD=21.14$) であり、全体の 78.47% と 73.94% をそれぞれ占めていた。昨年度の両学期の結果は 8 割弱であったため、相対的で若干の低下は認められたかもしれない（参照：吉川他，印刷中）。ただ、今年度後期道場への参加者数は 154 名であり、前期道場参加者数の 384 名に比べて半分以下であったものの、前後期ともに 7 割を超える参加者が 1 週間に一度もログインしていないという結果を踏まえると、現状の支援・介入方法では、鍛錬道場への参加学生が年度ごとに一定数入れ替わったとしても、同じような傾向であろうということは確認できた。

次に、週ごとに定めた学習目安到達状況についての結果を示す。データ整理に際して、参加者を「目安通り」、「目安 75～99% 達成」、「目安 51～74% 達成」、「目安 26～50% 達成」、「目安 1～25% 達成」、「未学習」の六つのパターンに分類し、「リスニング」と「文法問題」ごとにまとめた。「リスニング」においては、前期道場の結果は図 11、後期道場の結果は図 12、次いで「文法問題」においては、前期道場の結果は図 13、後期道場の結果は図 14 にそれぞれ示す。なお、「未学習」に含まれる参加者データは図から除外した。

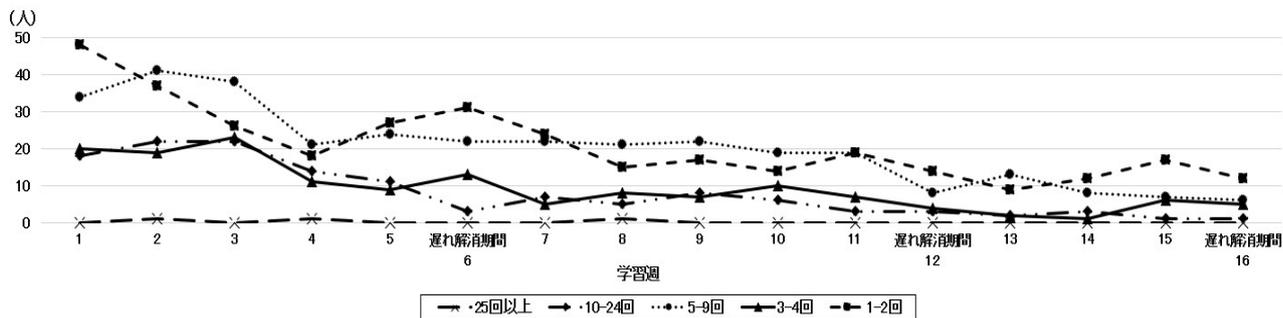


図9. 前期道場参加者間の週ごとのログイン回数

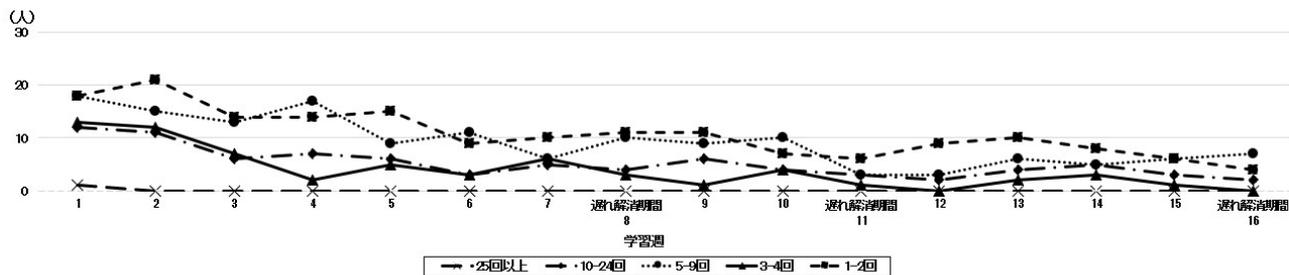


図10. 後期道場参加者間の週ごとのログイン回数

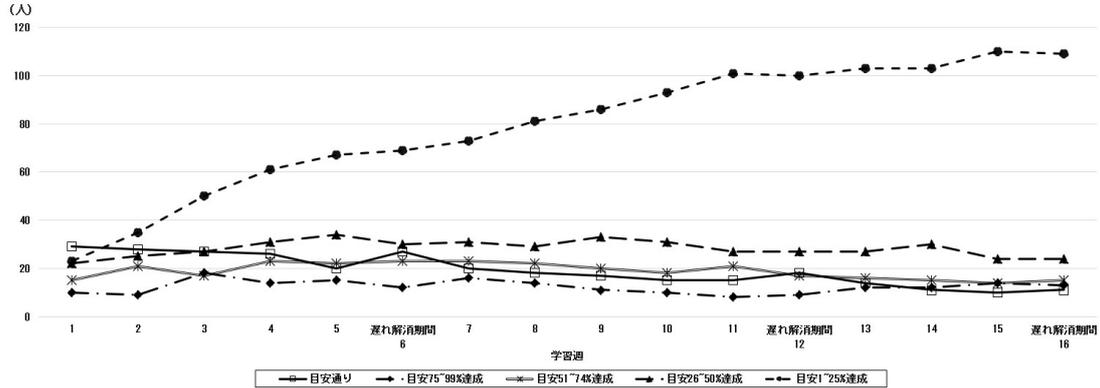


図11. 週ごとの「リスニング」教材の取り組み速度目安到達状況(前期道場参加者間)

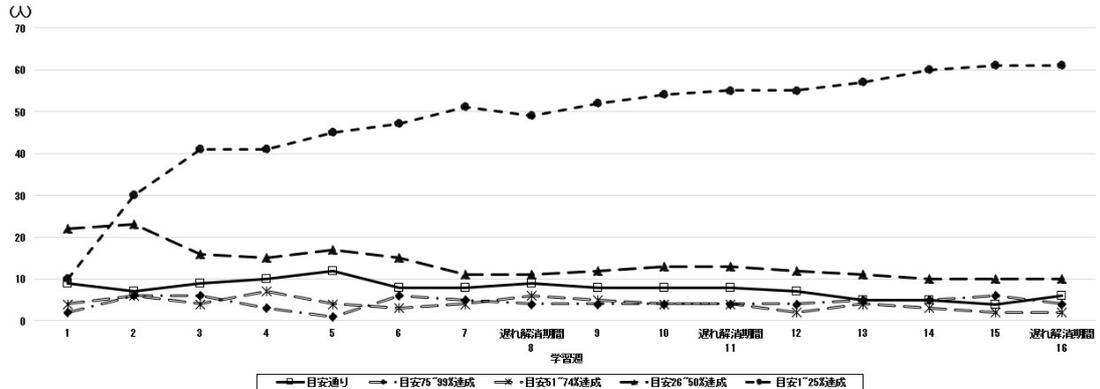


図12. 週ごとの「リスニング」教材の取り組み速度目安到達状況(後期道場参加者間)

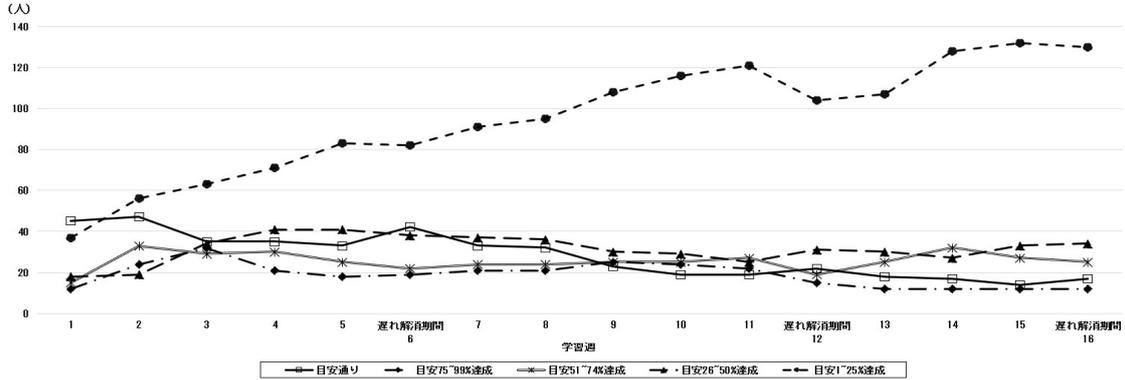


図13. 週ごとの「文法問題」教材の取り組み速度目安到達状況(前期道場参加者間)

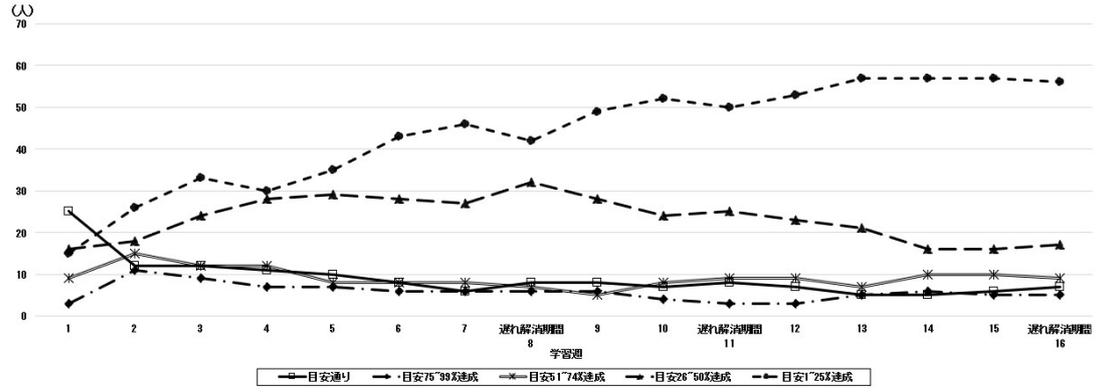


図14. 週ごとの「文法問題」教材の取り組み速度目安到達状況(後期道場参加者間)

どの図からも共通して言えることは、学習到達目安の 25%まで到達した参加者が最も多く、その傾向は右肩上がりである点であり、昨年度と同傾向であった。その他の到達度については特筆すべき特徴は見られず互いに類似していた。具体的には各目安到達率をまとめた表 4 を参照されたい。もう 1 点、図から言えることは、「遅れ解消期間」として設定した週では、初年度に見られた「駆け込み学習」と同じような傾向が、程度の差はあれど、どちらの教材においても見られた。「駆け込み学習」とは吉川他（2022）でも詳説しているが、未取り組み分の学習遅れを「遅れ解消期間」で取り組み、取り組み遅れを取り戻す行動を指している。前年度はこのような傾向は見られなかったが、初年度と今年度ではある程度確認できた。この理由として現時点で考えられることは、毎週の配信メッセージの有無である。昨年度は、初年度の経験や取り組みを踏まえ、学習期間中における有益な指導・介入方法が定まらず不明であったため、毎週のメッセージ配信を含め、多くの介入をすることはせず、取り組み速度目安を提示する程度にとどめ、事後アンケート調査から得られる参加者からの反応を見るととした。その結果、「計画の予定表があったので、自分の学習計画の基準にすることができた」と、「通知が定期的に欲しい」という声が得られたことから、取り組み速度目安の提示と定期的なメッセージ配信を今年度は行うこととした。メッセージ配信が有効か否かについての直接的な調査はしていないものの、介入方法で唯一 2021 年度と 2023 年度と、2022 年度とで異なるのは、メッセージ配信の有無であることから、学習週の始めとなる月曜朝に受け取るメッセージにより、少なからずの学習動機が鍛錬道場に向けられ、駆け込み学習があったことが考えられる。この駆け込み学習のよし悪しは議論の分かれるところではあるが、現時点で改善すべきは、表 4 で示すように、取り組

表 4. 2023 年度鍛錬道場における学習取り組み速度目安到達度

	前期道場		後期道場	
	リスニング	文法	リスニング	文法
目安通り	5%	7%	5%	6%
目安 75~99%達成	3%	5%	3%	4%
目安 51~74%達成	5%	7%	3%	6%
目安 26~50%達成	7%	8%	9%	15%
目安 1~25%達成	20%	25%	31%	28%

み目安の到達度を高める有益な介入策を検討していくことである。

4.2 本活動の効果検証

前節では、今年度を実施した鍛錬道場参加者の学習取り組み状況に関するデータを整理し、現状の問題点をまとめた。本節では、2章で詳説した計3回のTOEIC IPテストのスコアデータと、鍛錬学習実施前の自己報告のTOEICスコアデータを用いて、本活動の効果について検討していくこととする。

第1回・第2回実施分のTOEIC IPスコアの記述統計は表5に、第2回・第3回実施分のTOEIC IPスコアの記述統計は表6にそれぞれ示す。なお、表5の「第1回実施分」、および表6の「第2回実施分」には、道場参加募集時に参加者に事前アンケートとして、過去2年以内のTOEIC (IP) スコアデータを含めており（各項目の下段の丸括弧内の数値がそれに該当）、これらも効果検証の対象データとして含めることとした。その理由は、例年、鍛錬学習実施前と後の両方へのTOEIC IP受験者が少なく、統計分析を行うことが難しいと

表5. 第1回・第2回TOEIC IPを受験した前期道場参加者の記述統計

学年	第1回実施分			第2回実施分		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
学部1年	0 (55)	- (509.71)	- (91.47)	3	605.00	32.79
学部2年	0 (11)	- (605.45)	- (116.65)	2	719.50	180.31
学部3年	1 (18)	620.00 (644.44)	- (126.73)	2	742.50	53.03
学部4年	6 (27)	495.00 (573.15)	130.77 (108.47)	2	635.00	35.36
博士前期課程	0 (41)	- (651.22)	- (121.50)	0	-	-
博士後期課程	0 (2)	- (710.00)	- (28.28)	0	-	-
受験者数	7 (154)	512.86 (583.69)	128.38 (124.00)	9	667.22	92.74

注)「第1回実施分」の各項目の上段は各回のTOEIC IPスコアデータを、下段の丸括弧内は、参加者が報告したスコアデータを示す。

表6. 第2回・第3回TOEIC IPを受験した後期道場参加者の記述統計

学年	第2回実施分			第3回実施分		
	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
学部1年	2 (13)	622.50 (572.31)	17.68 (88.97)	1	630.00	-
学部2年	2 (10)	717.50 (635.10)	180.31 (140.75)	1	560.00	-
学部3年	2 (18)	705.00 (636.11)	106.07 (138.98)	0	-	-
学部4年	3 (10)	615.00 (628.00)	87.61 (114.63)	4	581.67	107.22
博士前期課程	0 (10)	- (629.50)	- (118.59)	1	515.00	-
博士後期課程	0 (0)	- (-)	- (-)	0	-	-
受験者数	9 (61)	659.44 (619.93)	99.36 (121.42)	7	578.57	98.22

注)「第2回実施分」の各項目の上段は各回のTOEIC IPスコアデータを、下段の丸括弧内は、参加者が報告したスコアデータを示す。

いう状態を解消するためであり、昨年度からこの方法を採用している（参照：吉川他，印刷中）。

両表を見ると、やはり今年度においても IP 受験者自体が少ないことが分かる。これは、IP テストの受験が参加者の自由意思であることが起因していると考えられる。鍛錬活動の効果検証をすべく、学習開始の前と後の両方に受験した参加者数を調べると、前後期でそれぞれ 2 名であった。これら計 4 名の詳細をみていくと、前期の 2 名においては学習開始前の TOEIC IP スコアは 2 名とも 560 であり、終了時のスコア平均は 635.00 ($SD = 35.36$) であった。単純計算すると、スコアが 75 点上昇しているが、この差が有意であるか否かはデータが少なすぎるため判断できない。後期も同様ではあるが、学習開始前の TOEIC IP スコアは 2 名とも 610 であり、終了時のスコアは 2 名とも 630 であり、単純計算で 20 点のスコア上昇が確認できる。

次に、参考程度ではあるものの、事前アンケート時に収集した自己報告の TOEIC (IP) スコア保有者のデータを含めた学習前後の比較を行うこととする。ここで報告するデータサンプルは、事前アンケート時で保有スコアを自己報告

し、鍛錬学習終了時に TOECI IP に受験した者である。まず、前期においては該当する参加者が 4 名おり、彼らの学習開始前の TOEIC (IP) スコア平均は 585.00 ($SD = 69.64$)、終了時のスコア平均は 648.75 ($SD = 91.50$) であり、単純計算で 63.75 点のスコア上昇があった。後期では、該当する学生は 2 名であり、開始前のスコア平均は 585.00 ($SD = 91.92$)、終了時のスコア平均は 660.00 ($SD = 35.36$) であり、単純計算で 75 点のスコア上昇があった。

最後に、IP テストのスコアと自己報告のスコアを保有する学生の両方を含めて、データの比較を行う。まず、前期においては 6 名該当し、学習開始前の TOEIC (IP) スコア平均は 576.67 ($SD = 55.47$)、終了時のスコア平均は 644.17 ($SD = 72.97$) であり、単純計算で 67.50 点のスコア上昇があった。後期の計 4 名のデータでは、学習開始前の TOEIC (IP) スコア平均は 597.50 ($SD = 55.00$)、終了時のスコア平均は 645.00 ($SD = 26.77$) であり、単純計算で 47.50 点のスコア上昇があった。

今年度は、IP 受験者数が少ないことから統計分析を行うことはしなかったが、どのスコアデータを比較しても、学習終了時点の TOEIC スコアが開始前のスコアに比べて上昇していたことから、一貫して上昇の傾向が確認できた。しかしながら、これらの上昇が有意なものであるかについては、検証を継続していく必要がある。そして、受験数を増やす対策を講じていく必要性をあらためて認識する結果であったともいえよう。

5. おわりに

本稿では、名古屋工業大学の英語科目集団が 2023 年度に実施した英語学習支援活動の一つである「名工大 英語鍛錬道場」の活動報告を行い、実現可能な介入策の確認が行えた。それと同時に、現時点で抱える課題もあらためて認識することができたため、今後も引き続き、学習期間中の指導・介入方法や、参加者の学習動機低下につながる要因の把握と、防止措置を講ずる必要性を確認した。

参考文献

吉川 りさ・横越 梓・石川 有香 (2022). 本学における継続的英語学習支援の

活動報告 *New Directions*, 40, 47-66.

吉川 りさ・横越 梓・石川 有香 (印刷中). 自律的英語学習の促進を目指して :
2022 年度「名工大英語鍛錬道場」 *New Directions*.